

St.Mary's

セント・マリーズ

第19号

2014年10月

ご自由に
お持ちください



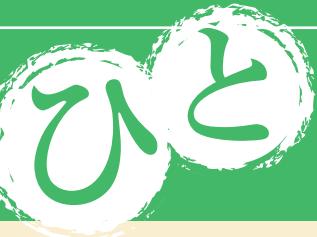
救命救急センタースタッフ

目次

INDEX

2 インタビュー「ひと」 救命救急センター長 山下 寿	5 医療トピックス 理学療法士・作業療法士・ 言語聴覚士のユニフォーム	9 健康エクササイズ ジムに行ってみませんか
3・4 診療科訪問 救急科 古賀仁士診療部長	6・7 活動日記 「がん征圧全国大会」ほか	健康献立 五目ごはん
集中治療科 爲廣一仁診療部長	8 病気と向き合う 食中毒予防は一年中 注意が必要です！	10・11 外来診療体制 聖マリアヘルスケアセンター 10月オープン

今回の



救命救急センター長 山下 寿

1985年、久留米大学医学部卒業後、同大学整形外科学講座入局。1994年、医学博士。86年4月～91年7月、公立八女総合病院、大牟田市立総合病院、宮崎県立日南病院、聖マリア病院に勤務。91年8月～93年3月、久留米大学整形外科助手。93年4月から二回目の聖マリア病院整形外科勤務を経て、2002年より救急科専従、2009年4月、救命救急センター長。

地域医療の「セーフティーネット」 市民に安心感を与え続けたい

—— 救命救急センターは、どのような診療を行っているのですか。

患者さんは、昼夜を問わず救急車で救命救急センター初療室(ER)に運ばれて来ます。救急科の医師は初期診断のあと、関係診療科の専門医と協力して治療を行います。治療の基本は循環、呼吸、意識状態を一刻も早く改善させることです。

心肺停止や多臓器不全に陥り生命の危機に瀕している方はもとより、交通事故・労働災害事故等で負傷された方や、(睡眠薬や農薬による)薬物中毒・ガス中毒・重症熱傷等により負傷された方々等救急車で搬入される全ての救急患者を受け入れており、傷病の種類・重症度・年齢は問いません。近年は、高齢化を反映し、高齢者の救急搬送症例が急増しています。

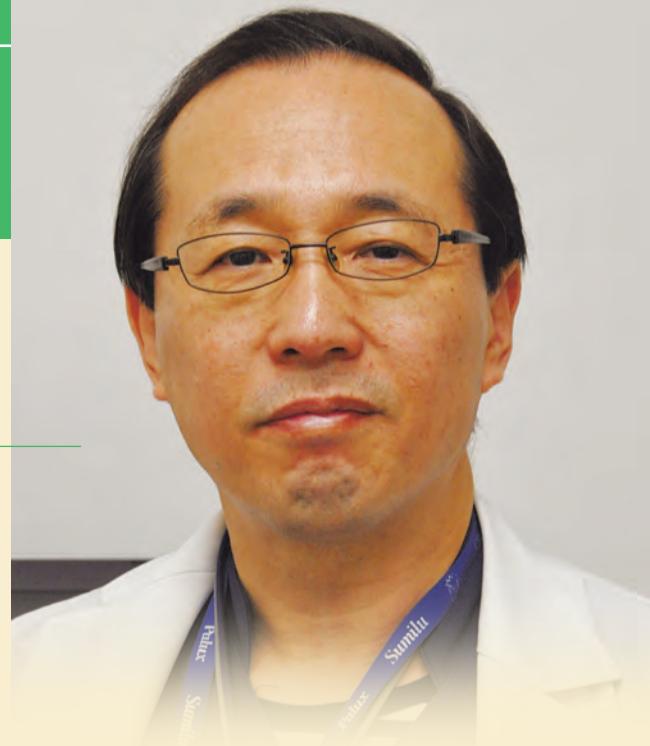
—— 受け入れている患者数は、どれくらいですか。

救急車搬送による受診者は1日約25人。ウォークイン受診者を含めると約160人にのぼります。このうち約18人が重症と診断され、集中治療科(ICU系病棟)に入院します。2013年の受診者は57,882人、このうち救急車で搬入されたのは約15%の8,664人でした。これは久留米市内の6割、筑後地区の4分の1に相当します。都道府県の要請などで設置された全国の救命救急センター約270カ所の中で例年、上位10位以内にランクされるほど、当院の救急医療は極めて活動的かつ多忙なのです。

—— 診療圏は、どの範囲ですか。

筑後地区を中心に、ざっと半径50km圏内をカバーしています。具体的には福岡、佐賀両県のほぼ全域と、熊本、大分、長崎各県の一部を抱えています。

当院は、すべての診療科(当直帯では耳鼻科、皮膚科、歯科を除く)で初期から二次、三次救急までの受け入れを行います。「救命救急医療を通じて断らない医療」



を実践し、地域の皆さんに安心感を与える地域医療のセーフティーネットであり続けたい、という思いをすべてのスタッフとともに共有しています。

—— スタッフ態勢を教えてください。

日本救急医学会指導医2人、専門医7人を含む専任医師11人をセンター所属として配置し、夜間時間帯は医師3人の当直態勢を維持しています。また、各診療科の当直医師11人による即時対応も可能です。センター専任の看護師は約90人。麻酔科医、薬剤師、診療放射線技士、臨床検査技士など兼任を含めると、センター全体で約150人にのぼります。

—— 今後取り組みたいテーマ、課題は。

まずは、次々と運ばれてくる重症患者を受け入れるには、若手医師スタッフの充実を図り、センター所属の実働医師を10人程度まで増員したいと考えています。

ドクターカーの運用充実も課題です。救急車に医師が同乗して現場に向かい、直ちに診断・治療を始めるものです。地域の診療所・病院の患者さんの病状が急変した際も対応し、「地域連携」を一層強めるという構想もあります。

—— ところで、医師を目指した理由を教えてください。

父は熊本県八代市で内科医院を開業していました。田舎でしたので、様々な疾患(内科でも外傷も)を診なければならず、苦労も多かったようですが、人の役に立っている父の仕事を小さい頃から見ていて、自然と医師を目指すようになりました。

—— 日常の緊張感をほぐす方法は。

とにかく音楽とお酒と犬が大好きです。音楽は何でも好きです。お酒(何でも可)を楽しみながら、スピーカーから流れる美しい響きに耳を傾けると、日ごろの緊張から解き放たれます。愛犬「チェリー」との散歩も週末の楽しみです。

introduction

救急科

より質の高い「断らない医療」を目指す

聖マリア病院救命救急センターに属する救急科の年間受け入れは約9000件。夜間も救急科の専任医師と11人の各診療科医師が控えており、より質の高い「断らない医療」の実践を目指しています。

①業務内容

救命救急センターの機能は、ER (Emergency Room: 救急救命室) や集中治療室を中心に、緊急手術や緊急検査などを担う部門から成り立っており、その中でERは主に救急車からの患者を受け入れ、救急初期診療からアドバンスド・トリアージ（患者の状態に応じた専門治療部門との調整）の役割を担っています。

この他にも、搬送現場の救急救命士へ医療行為の指示を出したり、消防機関と共に搬送事例の事後検証を行ったり（メディカルコントロール）、災害時にはDMAT（Disaster Medical Assistance Team; 災害派遣医療チーム）として被災地へ赴くこともあります。その活動範囲は病院の中に留まりません。

②特徴

「救命救急医療を通じて断らない医療を推進する」という運営方針のもと、初期救急（軽症）から三次救急（重症）までの様々な救急患者を年間9000件近く受け入れています。

当院では救急科と各専門診療科との連携体制が構築されており、夜間でも救命救急センター医師の他に各診療科の医師が11人控えています。特に循環器疾患や脳疾患に関しては専任医師が救命救急センター内に常駐し、初診時から救急科と共に診療にあたることが出来ます。

ERで多岐にわたる傷病者の診断と初期治療を行いつつ、重症者に対しては24時間の緊急手術や集中治療管理を可能とするシステムが敷かれていることが当院の特徴であり、強みです。

③最近のトピックス

質の高い救急医療を提供するためには、「救急医が重症管理の片手間に新たな救急患者の対応を行う」、あるいは「多数の患者の診療の合間に重症入院患者の治療を行う」というやり方ではなく、適切な初期診療を行い患者の処遇を検討するER部門と、あらゆる重症患者の根本治療に対応できる集中治療型救急部門とが同時に稼働する必要があると考えています。

当院では、本年度より救急科がERにおける初期対応に専念できる体制を敷くと同時に、集中治療科専任医師を増員し、救命救急センター全体の体制を再編成しました。

救急科診療部長 古賀 仁士

救急医療は、救命救急センター単独で行えるものではなく、地域のかかりつけの先生方や消防機関で働くスタッフの方々、そして地域住民の皆さんのご理解のもと、これらすべてが連携することによりシステムとして機能するものと考えています。地域の皆さんと手を携え、筑後地域に「救急車のたらい回し」が発生しないよう、これまで以上に努力を続けて参ります。



introduction

集中治療科

刻々変化する病態に迅速、的確に対応

救命救急センター集中治療科は、院内の地域医療支援棟(タワー棟)5階・6階(E-ICU、E-HCU、ICU、HCU)に入院中の重症患者の全身管理を中心に診療を行っています。重症感染症や多臓器不全、凝固異常、多発外傷、環境異常、重症熱傷などの特殊な病態を有していることが多く、一般病棟に入院される患者の治療とは大きく違っています。

治癒力を引き出す栄養管理

集中治療室での管理は時間ごとに変化していく患者の病態に早く対応する必要があり、通常よりも多くの看護師を配置し、多くの医療機器を駆使しながら治療を行っています。しかし、手術や処置を行った後は患者の治癒能力に委ねなければならないのが現状です。そのために、手術や処置後の栄養管理はとても大切なウエートを占めます。栄養管理は経静脈的に行う場合や経腸的に行う場合があります。集中治療室では、出来るだけ早期に経腸的栄養管理を行い、患者の治癒能力を引き出す努力を行っています。

早期リハビリで自立促す

また、集中治療室に入院される方は高齢者が多く、数日から長い時には数ヶ月の間ベッド上の安静が必要となってきます。そのため筋肉や関節の拘縮が起こり、自立の妨げになったりします。早期から理学療法士の介入を行い、リハビリテーションを行うことによって出来るだけ入院する前の状態になるよう心がけています。以上のように医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士などの多くの職種によるチーム医療が実践されているのが集中治療室であり、その中心になって取りまとめているのが集中治療科の医師であります。多臓器不全や多発外傷、環境異常などの患者を担当しますが、他科からの依頼があれば積極的に全身管理を引き受けています。



重傷患者の全身管理を担うICU

新たな外科領域にも挑戦

救急の領域でAcute Care Surgeryという分野があります。外傷手術と緊急手術、重症管理を診療の柱とする領域です。学会でも取り上げられており、今注目を浴びている分野です。当科でも外科と協力しながらAcute Care Surgeryを実践し若手の育成を行っていく予定です。

集中治療科診療部長 ためひろ 爲廣 一仁

聖マリア病院は地域の救急医療の一端を担って参りました。今後も皆さん方が安心して受診して頂けるよう、集中治療室スタッフ全員で治療・看護にあたつていきますので、よろしくお願ひします。



理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のユニフォーム紹介

病院内を歩くと、職種ごとに違う様々な色・デザインのユニフォームを着用した職員を目にします。今回はリハビリテーションスタッフのユニフォームをご紹介します。

写真は、リハビリテーションスタッフのユニフォームです。上衣はワインレッドに黒のストライプが入ったVネック、下衣はカーキ色という、今までのユニフォームとはまったく違うカラーコーディネートです。

以前のユニフォームは、上衣、下衣ともに白色でした。しかし、スタッフから「汚れが目立つ」「下着が透けて見える」などの意見があり、色が濃いものに変更することになりました。ユニフォームの基本的なデザインを選定した上で、カラーについてスタッフ全員にアンケート調査を行い、最も希望が多かった現在のカラーに決定しました。

理学療法士126人、作業療法士62人、言語聴覚士20人の男女計208人(9月現在)が、この新しいユニフォームを着用しています。三つの職種で基本的なデザインに違いはありませんが、左そでの上腕部にそれぞれの職種を意味する英略字の「PT」「OT」「ST」を入れ、区別がつくように工夫しました。

PT

OT

ST

理学療法士

作業療法士

言語聴覚士

新ユニフォームに切り替えた当初、見慣れないために、スタッフが集まる会議などの場で互いの姿を見て、大いに違和感を感じました。しかし今では、新ユニフォームは病院内で認知され、どこにいてもスタッフだと分かってもらえます。

リハビリテーションスタッフは、患者さんの治療のために各病棟を訪れたり、歩行訓練したり、病院内で活動することがしばしばあります。様々な場所で注目されることは、周囲を意識することになり、その結果、スタッフの責任ある行動につながっているように感じています。

病院内でこのユニフォーム姿を見かけたら、リハビリテーションスタッフです。気軽にお声掛けください。



リハビリテーションスタッフのユニフォーム

2400人集い、がん征圧の誓い新たに

がんの早期発見・早期治療を広く市民に訴える「がん征圧全国大会」が9月5日、福岡市中央区のアクロス福岡シンフォニーホールで開催されました。予想を大幅に上回る2400人の参加者は、記念講演や対談などを通じて、がん死予防に向けた積極的な取り組みの必要性について認識を新たにしました。1960(昭和35)年に定められた「がん征圧月間」のメインイベントであり、福岡県での開催は72(同47)年以来、42年ぶりでした。

今回の福岡大会は、聖マリア病院グループの「福岡県すこやか健康事業団」が日本対がん協会とともに主催しました。

「がんと仲良く」と題した記念講演の演者は、7年前に膀胱がんを手術で摘出せず、最新の放射線療法で克服した俳優、菅原文太さん(81)。尿に血が混じって、「摘出しなければ余命半年」という診断を受けた菅原さんは、セカンドオピニオンを医師10人に求め、放射線科の1人の医師から、病巣を狙ってくり抜く陽子線療法を提案された経緯や、実際の治療の模様について、ユーモアを交えながら語りました。菅原さんは終始とつとつとした口調で、「治療の効果が思わしくなくても失敗とは考えずに、いつもプラス思考でいたので命拾いした」と、がん克服の心構えを披露しました。

プログラム後半部となる対談の相手は、菅原さんに陽子線療法を提案した東京大学医学部付属病院放射線科の中川恵一准教授。中川准教授は、がん病巣の状態次第によっては摘出手術が望ましい場合もあると指摘し、「セカンドオピニオンを得た上で、自身の価値観に合っている治療法を選択してほしい」と結びました。



中川恵一・東京大学准教授(右)と対談する菅原文太さん

マラウイの子どもたちの健康を考えるセミナー

「アフリカ・マラウイの子どもたちの健康を考える」をテーマにした国際協力セミナーが9月20日、聖マリア学院大学で開催され、約60人が栄養不良児問題について活発な議論を行いました。聖マリア病院が独立行政法人国際協力機構九州国際センターとNPO法人ISAPH(アイサップ)などの協力で企画しました。

現地協力の経験を持つ同病院国際事業部の浦部大策部長(小児科医)、保健医療経営大学の伊達卓二教授らが、現在の国情や活動実績を報告。マラウイ保健省課長と地方保健局長が栄養不良対策や課題について説明しました。参加者は講演や質疑を通して、発展途上国の子供の栄養改善に向けて、粘り強く協力事業を進めていく必要性を認識しました。

聖マaria病院はこのほか、韓国・釜山カトリック大学校や台湾・輔仁大学などから看護学生、看護師を研修生として受け入れ、さまざまな看護ノウハウを伝えるなど、国際交流事業に幅広く取り組んでいます。



会場の質問に答える
マラウイ保健省の課長

厳かに「聖マリア教会献堂の日」ミサ

カトリックの暦で「聖マリア教会の献堂」記念日で、また聖マリア病院の運営母体である社会医療法人「雪の聖母会」の開設記念日でもある8月5日、釜山カトリック大学校総長の尹景哲神父の司式によるミサが、同病院敷地内の「雪の聖母聖堂」で厳粛に執り行われました。

聖マリア教会とは、ローマに建つサンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂(西暦435年着工、1750年完成)のこと。この教会については、夢に現れた聖母マリアに「私のために教会を建ててほしい。その場所に雪を降らせます」と同じ日に告げられた貴族と教皇が、真夏のエスクイリーノの丘に雪が積もっているのを見て、その地に建てたとの言い伝えがあります。戦国時代の日本にも伝えられた、この「雪の聖母の奇跡」は、隠れキリストンたちの憧憬となりました。当時描かれ、信者に密かに受け継がれてきた絵画「雪のサンタマリア」は現在、日本二十六聖人記念館(長崎市)に所蔵されています。この話は、当法人名「雪の聖母会」の由来ともなっています。



尹景哲神父の司式で執り行われたミサ

医学生向けの救急対応勉強会開く

医療系の学生が、心停止など心臓血管系の重篤な疾患の初期対応や、救急要請の際の重症度分類・病歴聴取・診察の方法を学ぶ「学生ACLS・AMLS大会」が8月下旬の3日間、聖マリア病院の主催で開催されました。昨年に続いて2回目。熊本、鹿児島、島根県など各地から参加した医学生5人と看護学生1人の男女6人は、指導教官のガイダンスに引き続き、コンピューター制御の精巧な患者マネキンを用いた実地トレーニングに挑戦。人が倒れた場合、原因を探り、診断を下し、医療器具を選び、最終的な収容施設を決定するといった救命救急の基本動作を修得すると同時に、医療チームの中でメッセージを明確に伝え合い、互いを尊重し合って行動することの大切さを学びました。

元気よく親子レクリエーション

9月の日曜日、聖マリア保育所では親子レクリエーションが開催され、子どもと保護者の歓声がホールいっぱいに響きました。「子ども一人一人をしっかりと見つめ、子どもたちの心に寄りそって、それぞれの成長を大切にする」という同保育所の保育方針に沿って、保護者と共に子どもの成長を見守るために実施したイベントです。お父さんやお母さんは、リズム体操やダンスで子どもたちと手をつないだり、抱きしめたりしながら一緒に体を動かし、しっかりとスキンシップ。勢いよく駆ける我が子の姿には「がんばってえ～」と大きな声援を送りました。親子製作では、ペットボトルを用いた楽器作りなどにチャレンジしました。



お父さん、お母さんの声援を背に元気に走る子どもたち



第18回 ジムに行ってみませんか

このコーナーは心と体が元気になるエクササイズ情報を届けています。

聖マリア国際保健センター
米国スポーツ医学会認定HFS
トレーナー 大渕 勝敏

スポーツの秋真っ只中。体力作りのためにジムに行こうと考えている方もいらっしゃるのでは? 最近のジムは、利用者のあらゆるニーズに対応し、料金体系やサービスも充実しているようです。そこで、これから運動を始めようという方に運動施設を選ぶ際の4つのポイントを紹介します。

ジム選び4つのポイント

①立地

無理なく通えるところが理想です。ショッピングモールに併設された施設や、駅から近い施設が最近増えています。駐車場は十分あるかどうかなどもポイントです。

②料金

入会金、月会費を事前に確認しましょう。最近の民間フィットネスクラブの月会費は6,000円~11,000円程度です。また、市町村など自治体が運営する公共の運動施設やプールなどは、1回の利用料金が200円~500円で設定されています。



エアロバイクの並んだスポーツジム

③マシンや設備

気持ちよく安全に運動するためには、機器のメンテナンスが適切に行われているか、施設内は清潔に保たれているかが重要です。自分が使いたいフィットネスマシンがあるか、事前に見学させてもらうなどして確認したらよいでしょう。

④運動プログラム

自分が参加したい運動プログラム(エアロビクス、ヨガなど)があるか、利用したい時間に混雑していないか、事前にチェックしておけば安心です。

通いやすく快適な環境

以上の4点のうち、通いやすく快適な環境が何よりも重要です。そういう意味では社会人の方にとって、仕事帰りにジムに行くというスタイルが運動習慣の定着には理想的ですね。

これから何か運動を始めようと思っている皆さん、長く通えそうな相性ピッタリのジムを見つけてみてはいかがでしょうか。

健康献立

五目ごはん

●栄養指導管理室●

ご飯やパンなどに多く含まれている炭水化物は、エネルギー源となる糖質からできています。炭水化物の中の糖質は食べた後、速やかな血糖上昇につながります。そのため、糖質を食べ過ぎると高血糖になる恐れがありますので、血糖コントロールをよくするためにも、1食当たりの糖質の量を決めておきましょう。今回は、その炭水化物が多く含まれているご飯のレシピをご紹介します。



材料

(4人分=ご飯3合)

鶏もも肉……60g
たけのこ……40g
人参………20g
こんにゃく……30g
油揚げ……10g

作り方

- ①調味料A(だし汁600cc、醤油大さじ2~3、塩一つまみ、みりん大さじ1~2、酒大さじ1/2)を準備する。
- ②鶏もも肉は2×1cm程度の細切り、人参・たけのこは0.5×2cm程度の千切り、油揚げ・こんにゃくは1×2cm幅に切る。
- ③油揚げは熱湯をかけ、こんにゃくは熱湯で2分ほど茹で、水気を切っておく。
- ④鶏もも肉を小さじ1の油で炒め、①と②の具材に調味料Aを加え、火を通しておこす。火が通ったら、荒熱を取る。
- ⑤具材と煮汁を分け、洗った米に煮汁を入れる。煮汁が足りないときは、だし汁を足す。
- ⑥水分を軽く絞った具材を米の上に置き、30分ほどそのまま置く。その後、炊く。

社会医療法人 雪の聖母会

聖マリアヘルスケアセンター

St. Mary's Healthcare Center



～地域包括ケアの充実めざして～ 西鉄電車「試験場前」駅前にオープン

私たちがめざす病院

1. 久留米市内の在宅医療の発展を支援する病院をめざします
2. 地域におけるリハビリテーションの充実をめざします
3. 在宅透析を支える施設をめざします
4. 内視鏡センターを併設し、健康増進に貢献することをめざします

〈診療科目(5科)〉 医師・職員:222人
リハビリテーション科・消化器内科・腎臓内科・透析内科・内科
人間ドッグ

〈フロア構成〉 病床数：計 198 床
1階： 外来、相談室、売店、レストラン
2階： 透析センター
3階： 国際保健センター、内視鏡センター
4～5階： 回復期リハビリテーション病棟
6～7階： 療養病棟
8階： リハビリテーション室、フィットネスルーム



社会医療法人 雪の聖母会

聖マリア病院

(財)日本医療機能評価機構認定病院

福岡県久留米市津福本町422

TEL 0942(35)3322(代) FAX 0942(34)3115(代)

聖マリアヘルスケアセンター

福岡県久留米市津福本町448番5

TEL 0942(35)5522(代) FAX 0942(31)3216(代)

